

各地域で活用できるようプログラム化しました

支え合いの
地域をつくる
ノウハウ本



地域組織 × NPO

による新しい支え合いのかたち

- 子どもと若者が活躍し生まれる支え合いの景色 -

宇都宮市西地区での取り組みでは、地域の子ども・若者（小学生～大学生）が地域住民のお困りごと解決の担い手となることで、「お手伝いしてもらおうかな」「子どもが庭に来てくれることが楽しみ」など、地域住民の「助けて」の声を紡ぐことができました。また、依頼者である地域住民から子ども・若者に「ありがとう」とお駄賃が渡されることで、担い手である子ども・若者たちも『喜んでもらえた嬉しさ』と『自己有用感』を得て、地域の一員であることの自覚や社会性を育むことができました。



またひとつ
笑顔が生まれました



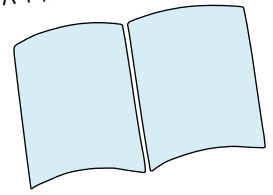
世代を超えて
困っている方のお手伝い

地域（組織）に外部の団体・活動者が入る際のポイント

その 1 地域の方に向けた自己紹介の準備

「これまでどんなことを行ってきたのか」「なぜ活動を始めたいのか」「これからどんなことを地域で始めようとしているのか」についてわかりやすく説明できるように準備しておく

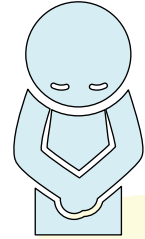
＼ A4 用紙 1 枚がベスト！



その 2 既存の団体への敬意・挨拶・理解

地域の支え合い活動や地域づくり活動を行う既存の団体が「どんなことをしているのか」「活動を行う上で困っていることはなにか」について教えてもらう

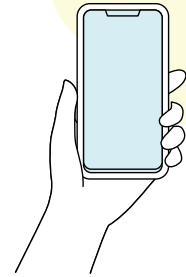
＼ 教えてください！



その 3 「いきなり」始めないこと

地域づくりにおいては、「急に」「勝手に」は驚きから嫌悪感、ひいては信頼の低下につながるので、信じて任せてもらえるようになるまではどんなに小さなことでも丁寧に相談・連絡する

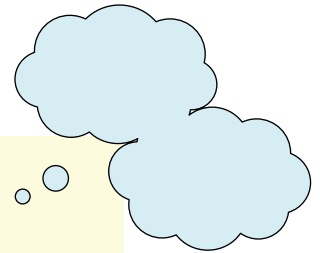
＼ 電話での相談・連絡が多め！



その 4 活動を通して生まれる景色を伝える

活動内容だけでなく、活動を通じてどんな地域の景色が実現するのかを合わせて説明する

＼ こんな景色が生まれる！



例えば西地区の場合…

- ・ 地域住民が安心して暮らすことができている
- ・ 高齢を理由に我慢と諦めない暮らしができている
- ・ 世代を超えて連帯が育まれる地域ができている
- ・ 課題解決・支え合いの価値観を持った次世代が育まれる地域ができている

NPO と地域が連携することでできること

- ・ 地域の既存の仕組みの外の動き（新しいアイデア・取り組み）をつくることができる
- ・ デジタルツールを活用し、デジタル活用世代（10代～60代）にアプローチできる
※デジタルツール…LINE・Google フォーム・QR コードなど
- ・ 地域組織が持つ地域内の信頼性により、外部者の活動が住民に受け止められやすい
- ・ 実施を考えていく際、その後の展開を含めた流れを描き、仕組みとしてつくることのできる

連携するためには：

ここがポイント！

これまでの取り組みを否定することなく教えてもらい、地域を理解しようとする姿勢を見せる

小さな動きやアイデアでも、早い段階で報告・相談する

「決める」前に意見をいただく（参画提案を行う）

NPO の人件費は、自ら資金調達し確保する

地域組織また担い手に帰属意識・責任感・使命感を持ってもらうため、地域を限定する

オペレーションフロー

1 ニーズの掘り起こし 主体は地域

地域団体関係者による口コミ・紹介、支え合い新聞（活動報告・活動案内）の配布活動を行う

2 ニーズの受付 主体はNPO

依頼者からの相談窓口の設置と、電話による相談・依頼の受付対応を行う。窓口担当者は、「詳細は活動調整を行うNPOより連絡します」と伝え、依頼者の氏名・住所・連絡先を確認し、情報共有の許可を取り、NPOに共有する

3 ニーズの確認 主体はNPO

Google フォーム等を活用して依頼内容を確認し、依頼者に現地確認の打診・相談・日程調整を行う。その後、現地確認（活動場所・休憩場所・トイレの使用許可・駐車場の有無・現地で借りられる道具の確認など）に伺い、現地の様子をチームメンバーに共有する



参考フォームはこちら

4 プログラム化 主体はNPO

依頼内容をプログラム化する（集合場所・ミッションの設定・活動開始 / 終了時間の設定・必要な物の把握と準備・参加人数の設定・リスクマネジメント・現地コーディネーターの設定など）

※2時間程度の活動を想定するとよい

※西地区の場合、保険については『NPO 総合保険』で対応

5 担い手の確保 主体はNPO

活動報告・依頼受付・担い手（活動者）募集について記載した『助け合い新聞』を配布し、地域住民に声かけを行う。また、Google フォーム等を活用し、地域の小学生（高学年）・中高生・大学生・保護者・社会人・退職者に個別で声かけを行い、担い手の登録を促す



参考フォームはこちら

6 活動調整 主体はNPO

依頼者に連絡を取り、活動日時・場所・内容について確認を行う。また、担い手を集めたLINE グループやSNS のチャットに活動概要を共有し、当日の活動者の取りまとめを行い、実施予定を地域側に報告する

7 活動開始 主体はNPO

当面は現場責任者をNPO が担い、リスクマネジメントと活動者のモチベーション管理を行う。活動者を記録し、自己紹介・活動のゴール・注意事項を現地で連絡・共有し、活動の様子を記録・撮影する

8 レポート 主体はNPO

活動量・活動写真・依頼者と活動者の声をまとめる

※単なる記録にとどまらず、WEB サイトや広報物（チラシ・パンフレット・新聞など）で発信し活動を可視化するとよい

9 定例会議 主体は地域とNPO

ケースの共有と検討会議を行う

※第二層協議体と定期的に進捗報告や相談などを実施するとよい

10 広報 主体は地域とNPO

生活課題を感じている地域住民（依頼者）と潜在的な担い手（活動者）、双方に届ける『支え合い新聞』を発行する

※配布・貼付先…

〈地域住民〉自治会の回覧板、スーパーの掲示板、町内掲示板など
〈担い手〉若者 × 地域のWEB メディア『あしかもメディア』、担い手を集めたLINE グループ、友人・知人による口コミなど

宇都宮市 西地区をモデルに
住民同士が支え合い、ほっと安心して過ごせる地域に



網戸の張り替え



お庭の草刈り



窓のお掃除



落ち葉掃き

「助けて」「手伝って」「一緒にやろう」という声をもっと身近に聞こえる地域を目指して

令和5（2023）年3月

令和4（2022）年度 NPO を活用した地域コミュニティ助け合い機能強化事業
栃木県 県民生活部 県民文化課（業務受託者：NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク）